

右得元興寺僧傳燈法師位賢和牒僣伴伯故律師靜安法師去承和年中所造也而沙石之構逐年漸頽風波之難隨日彌甚往還舟船屢遭沒溺公私運遭常致漂失爰賢和自去年春企心彌濟輸誠修造數月之間適得成功但恐累年之後所在少破無人繕修徒以頽壞望請令國司檢校兼修理破損者右大臣宣宜自今以後永付國司相續令作若不存檢校有致損壞者遷替之日拘其解由

貞觀九年四月十七日

〔源平盛衰記 二十六〕入道非直人附慈心坊得閻魔請事

福原ノ經島築レタリシ事直人ノワザトハ覺ヘズ彼島ヲバ阿波民部大輔成良ガ承テ承安二年癸巳年築始タリシヲ次年南風忽ニ起テ白浪頻ニ扣カバ打破ラレタリケルヲ入道清盛情此事ヲ案ジテ人力及難シ海龍王ヲ可奉宥トテ白馬ニ白鞍ヲ置童ヲ一人乗テ人柱ヲゾ被入ケル其上又法施ヲ手向可奉トテ石面ニ一切經ヲ書寫シテ其石ヲ以テ築タリケリ誠ニ龍神納受有ケルニヤ其後ハ恙ナシサテコソ此島ヲバ經島トハ名附タレ上下往來ノ船ノ恐レナク國家ノ御寶末代ノ規模也唐國ノ帝王マデ聞ヘ給ツ日本輪田ノ平親王ト呼テ諸ノ珍寶ヲ被送帝皇ヘダニモ不參ニ難有面目ナリキ

〔平家物語 六〕經の島の事

何よりも又ふく原の經の島つゝて上下往來の船の今のよにいたるまでわづらひなきこそめでたけれかの島は去ぬる應保元年二月上旬につき始られたりけるが同八月二日の日俄に大風吹大なみ立てみなゆりうしなひてき同三年三月下旬にあはの民部しげよしを奉行にてつかれけるに人ばしら立らるべきなどと公卿せんぎ有しか共それは中々ざいごうなるべしとて石のおもてに一切經をかいてつかれたりけるゆゑに經の島とは名づけられ

〔攝津名所圖會 八 矢田郡 兵庫津 福原莊海陸都會の地也町數四十四名西海道の驛にして大